普天間飛行場の即時閉鎖・早期返還に向けた市の取り組み

政権交代以降、普天間飛行場問題を担当する各大臣が現地視察を行う際には、普天間飛行場を眼下に見下ろす嘉数高台などから 2004 年8月に発生した沖国大ヘリ墜落事故当時の様子などを説明し、普天間飛行場の危険性の早期解決に向けて訴えました。

▲平野内閣官房長官（当時）による現地視察
2010 年 1 月 9 日　普天間第二小学校屋上

▲岡田外務大臣（当時）による現地視察
2009 年 11 月 16 日　嘉数高台公園展望台

▲北澤防衛大臣による現地視察
2009 年 9 月 26 日　嘉数高台公園展望台

▲前原沖縄担当大臣（当時）による現地視察
2009 年 10 月 3 日　嘉数高台公園展望台

2005年ワシントン・サンディエゴ訪米要請行動

2回目となる05年度の訪米では、カルフォルニア州選出議員を中心に上院議員及び下院議員と面談し、沖縄の過密な基地の状況を説明すると共に、その解決に向けて基地の受け入れ方について協力を要請いたしました。その中でも、海外基地見直し委員会の設立に深く関わったファインスタイン上院議員は、「普天間飛行場はそのままそこにあるべきでない」とし、さらに「海を破壊する名護市辺野古沖への移設計画はクレイジーである」、「市民生活に影響を与える場所には軍事基地を建設するべきでない」と述べ、普天間基地の閉鎖に向けては、ファインスタイン上院議員みずからラムズフェルド国防長官へ手紙を書くことを含めて、宜野湾市に協力していきたいと力強い回答を得ました。

←サンディアゴ市との協議

オーシャンサイド市との協議

ファインスタイン米上院議員へ基地の即時閉鎖に向けた協力を要請

ワシントンにおける要請後は、サンディエゴへ渡り、閉鎖・再編により大きな影響を受けるとされるオーシャンサイド市・サンディエゴ市の自治体、地元平和団体との意見交換を行いペンドルトン基地を抱えるオーシャンサイド市長は、「ペンドルトン基地と一番近い住宅地は3マイル（約5km）も離れている」「普天間飛行場の近くには恐ろしくて住みたくない」と語っており、沖縄と米国本土における基地のあり方には、雲泥の差があると改めて確信することとなりました。　サンディエゴ市のフェルナンデス上級政策補佐官は、「閉鎖される海外基地を多く受け入れたい」と語っており、普天間飛行場の受け入れ実現の可能性を示唆しました。この両市において共通することは、基地と共存する環境（広大な敷地面積等）が整っており、住民に与える影響は少ないことから、基地閉鎖ではなく、更なる基地受け入れを望んでいることです。また、地元市民団体においても、「海外基地を米国内に戻す運動に取り組む」としており、普天間飛行場の受け入れに前向きな姿勢を示し、今後の協力支援を約束しております。